

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月15日(火)

《敵を愛しなさい・完全な者となりなさい》

皆様、『敵』と思う人は何人くらいいますか。愛する夫でしょうか。愛する子ども達でしょうか。それとも隣の人でしょうか。『敵』とまではいなくても、憎む人はいますよね。聖書にはただ、「敵を愛しなさい」とだけ書かれていますが、実際にはイエス様は、「憎む人を赦すだけではなくて、敵と思うほどの人も赦さなければならない」とおっしゃっているのです。

私達が実際に、『敵』と思う存在に出会う機会は、何回くらいあるのでしょうか。私はまだ一度もありません。たぶん皆様もそうではないでしょうか。このみ言葉は、「もし『敵』が現れたら、その人のためにも祈らなければならない」ことを表す、象徴のようなみ言葉です。「敵を愛せる」、「敵のために祈れる」くらいになれば、憎む人など簡単に赦せますよね。それがイエス様の狙いです。「憎しみを感じさせるような出会いがあった時に、自分がどのような態度を見せているのか、イエス様を知らない人々と同じ心持になっていないか、反省しなさい。」という意味です。

皆様は、「憎む人がいますか」という質問に、当たり前のように「はい、います。」と答えますよね。しかし実際には、憎む人もなくしたほうがよいのです。なぜ、憎むことにエネルギーを使うのでしょうか。どのくらい命が残っているかわかりませんが、もし、寿命が100年あるとしても、今の自分の年齢を考えてみれば、“残った時間はあつという間に過ぎてしまう”と思うでしょう。そうではありませんか。愛するための時間さえ足りないのに、なぜ憎むことに時間を全部使ってしまうのでしょうか。

さあ、イエス様がおっしゃったとおり、もう一度振り返ってみましょう。私たちは何のために生きているのでしょうか。憎むためでしょうか、愛するためでしょうか。憎む人と愛する人と、どちらが多いのでしょうか。半分くらいでしょうか。『憎む人』というのは、もっと簡単に言えば、『好きではない人』のことです。福音敵に解釈すれば『好きではない人』、『あまり関心を持ちたくない人』が全て『憎む人』となります。皆様の関わりの中で、関心を持ち、好きになっている人が、どのくらいいるでしょうか。1割くらいでしょうか。5割くらいでしょうか。きっと5割にはならないでしょう。このような観点で自分を見てしまったら、私たちはみんな赦しの部屋に走って入らなければならないでしょう。このようなことを今日の福音でまじめに考えてみましょう。「愛します。」「愛します。」と言いながら、実際には憎んでいるのが、私達の本当の姿ではないでしょうか。たとえば、家庭を見てください。血のつながり、絆、愛など、いつも肯定的なイメージばかりが思い浮かびますが、実際には、あってはいけない憎しみが家庭の中にどのくらい生じているでしょうか。親子の関係、兄弟の関係、全ての関係を、イエス様を全然知らない人たちのようにしているカトリック信者もたくさんいるのではないのでしょうか。そういう意味で、もう一回考えてみましょう。

さあ、二番目です。もう何回も申し上げたことなのですが、「あなたがたの天の父が完全であられ

るように、あなたがたも完全な者となりなさい。」というみ言葉についてです。第2バチカン公会議の前には、『完徳(かんとく)』という言葉がありました。しかし、第2バチカン公会議の後、『聖徳(せいとく)』に変わりました。

私達は誰の姿に似ているのでしょうか。創世記の説話を読むと神様はご自分を似ている者として人間を造られたと書いています。皆様に覚えておいていただきたいのですが、ラテン語に「IMAGO DEI (イマゴ・デイ)」という言葉があります。「IMAGO」はイメージの意味です。「DEI」は、神様を言います。「IMAGO DEI」は、「人間は、神さまの姿に似ている存在として創造されている」ことを言いあらわした、神学的に深い意味を持つ言葉です。この言葉を是非、覚えてください。あらゆる人間は、神さまの姿に似ているのだから、尊さを持ち、共にそれに相応しい姿を見せなくてはならない事を忘れてはいけません。たとえば、神様はねたむでしょうか？ ねたまないと思いますよね。人を殺したいと思うでしょうか？ 思わないですよね。

皆様、『完徳』つまり完全な徳に至る道とは何でしょうか。昔の教会の教えでは、私たちが完徳にならないといけない理由を二つあげています。一つは、私たちの姿が、神様と似せて創造されていること。二つ目は、今日の福音にもあるように「あなたがたも完全になりなさい」とイエス様がおっしゃっていることです。では、「完全な者になる」というのは、どういうことでしょうか？ 死なないことでしょうか？ それは、私達が死んでからいただく一番大きいプレゼントである永遠の命でしょう。神様のようにいろいろな能力を持つことでしょうか？ 全ての人を見通せる目を持つことでしょうか？ どのようなことが、完全になることなのでしょう。それはただ一つです。神様のみ心を測れる心になることです。「なぜ今このように苦勞をしているのか。」と文句を言う前に、「神さまのみ旨はどこにあるのか。」と推し測ろうとする心を持ちなさい、という意味ではないでしょうか。

私達は、死ぬ時まで完全にはなれないと思います。しかし聖人達は、完徳に至ったと言われる生き方を見せてくださいました。ということは、私たちも頑張ればできるのです。「頑張る」ということは祈ることです。祈りながら、自分のことは客観的に、相手のことは憐憫の情を持って見ながら、イエス様のみ心を測ろうとすれば、一年後には私達も少しは聖人たちに近づいているのではないのでしょうか。それが、教会が長い歴史の中で変わらずに一番人々に勧めている完徳の歩みです。

皆様、いろいろなことがあると思います。だから私達は、外れてもよいのです。ただ、目的だけはいつも心に置いた方がよいと思います。目的地がはっきりしている人は、外れてもまた戻ってきます。しかし世の中には、目的地さえ見失ってしまう信仰者もたくさんいます。「なぜ信仰の生活をしているのか」という心で生きている人も結構いると思います。皆様、今日の福音を通して、「私はあなたが教えてくださった道を歩みたいと思います。」という告白が出来るように頑張りましょう。

ありがとうございました。